

■第4回武蔵野市緑の基本計画検討委員会 議事要旨

●日時：平成30年5月23日(水) 19:00～21:00

●場所：武蔵野市役所 802会議室

●武蔵野市緑の基本計画検討委員会 出席者9名、欠席者1名

阿部委員長、秋田副委員長、池田委員、小田委員、喜内委員、小松委員、鈴木委員、曾田委員、平田委員

●事務局

- ・環境部 緑のまち推進課 関口課長ほか11名
- ・株式会社総合設計研究所：2名

●次第と主な議論内容

1 報告事項

(1) 平成29年度検討委員会等のおさらい

- ・平成29年度に開催した、検討委員会、庁内検討委員会、視察、緑のワークショップについて主な意見について確認し、これまでの委員会での検討経緯を共有した。

(2) 前回資料の修正箇所の確認

- ・これまでの委員会で提示した、新・緑の基本計画の構成イメージ、武蔵野市の緑と水に関する課題・新たな視点の整理、検討ポイント案について、第3回検討委員会の意見を踏まえて修正した箇所について報告し、意見の反映箇所を確認した。

2 議事

(1) 計画の目標について

- ・第3回検討委員会のご意見を踏まえて、改定に向けた考え方を整理した資料を提示した。目標の設定や、次回以降検討していく個別施策との関連性を想定しながら意見交換を行った。

(2) 新・緑の基本計画のアウトプットのイメージの確認

- ・これまでの委員会で議論してきた計画の検討ポイントの案をもとに、将来イメージの案についてストーリーとイラストを提示し、計画が目指す将来イメージを確認し、概ねの方向性を共有した。

(3) 方針・基本施策について

- ・現行計画の方針、施策について、緑に関する社会動向やこれまでの委員会の意見を踏まえ、改定に向けた考え方を整理した資料及び施策体系の案を提示した。方針の構成表現方法、個別施策で書き込むイメージなどについて意見交換を行った。

●主な意見のまとめ ⇒：委員の意見または事務局の回答

【計画の目標について】

- ・「武蔵野市らしい緑」と「武蔵野らしい緑」をどう使い分けていくか整理が必要
⇒「武蔵野市らしい緑」は、都市部にありながら緑が多く、市内の住宅や駅前の緑など地域に密着した多様な緑の特徴を表し、「武蔵野らしい緑」は、武蔵野の雑木林や市域を超えた広い意味の緑の特徴を表す。
⇒「武蔵野市らしい緑」「ライフスタイルの中で良さを実感する緑」を委員会の意見を踏まえ、計画の方向性としてあげているが、計画では一括して「武蔵野市の多様な緑」とした方がわかりやすい。
⇒今回のテーマでは、ライフスタイルを掲げているので、「武蔵野市」と「武蔵野」の使い分けが必要である。
- ・みどり率については、他で使われている目標ではあるが、最近あまり使われていないように思うので、取り入れるのはいかがなものかと思う。
- ・緑被率 30%は目標として適切か、達成できそうな目標にすることが良いのか。
⇒緑被率 30%は、達成は難しいかもしれないが、住民の合意によって策定した緑の基本計画で緑被率 30%を確保することを目標としていれば、緑の減少に対する予防線として良いと思う。
⇒緑被率、緑視率は、都市計画のゾーニングと結びつけて考えると、目標の設定が具体的に becoming のではないか。
- ・「歩いて行くことのできる公園の整備率 100%」に公開空地や自主管理公園を含めた考え方にするのであれば、「公園等」とした方がいい。
- ・満足度の評価では、緑の満足度に関する目標は必要。市民がお客様目線にならないように、例えば、緑の活動に関わっている人を対象とした調査とする等工夫が必要。また、市民が主体的に関わっていく視点と緑の基本計画が注目されることが必要。
- ・緑の質の向上につながる目標としては、ライフスタイルの中で緑をどう感じとるのかの目標があっても良い。(例：好きな公園や四季を感じる空間を知っているなど)
- ・緑視率の目標はあった方が良い。通りの緑の景観を評価するために必要だと思う。

【計画の方針・基本施策について】

- ・木の植え方や植生の更新について、生物多様性の観点が必要ではないか。
- ・今後個別施策を検討していくにあたり、緑のマネジメントを誰が担うのか、行政だけで管理するのではなく、市ではない組織との連携や、緑のまち推進課とは別の課との連携を計画に示してはどうか。
⇒施策の記載には、市民・民間・行政の関わり、役割分担を記載することが必要ではないか。

- ⇒緑の基本計画を策定し、3～5年でできる施策や、意識を広めていくのに時間がかかる施策もあると思う。施策を短期・中期・長期に分け、短期で効果が出ることをきっかけに、市民の意識を高めることが必要ではないか。
- ・基本施策の「長期財政予測を見据えたマネジメント」の上に来る言葉が、「緑っていいね！の実感を広げていこう」はなじまないと思う。例えば「緑をみんなで支えていこう」とするのはどうか。マネジメントは市だけでなく、民間に支えてもらうことを宣言した方が、今後の個別施策の内容につながるのではないか。
 - ・世界農業遺産を目指してはどうか。夢のある目標を設定しそれが実現できれば市民の誇りになると思う。
 - ⇒地域のステイタスを上げるために、農地を活用することを検討してはどうか。
 - ⇒都市農地は日本の大都市近郊の特徴的な土地利用で、江戸時代から受け継がれている農地があることは、非常に貴重で海外から見ると評価されると思う。
 - ・農地の保全の問題は、所有者、民間だけでは解決が難しい課題である。市で農地を買うことも必要である。
 - ・学校の緑は保全するだけでなく、緑の教育についても、関連する課と連携する仕組みがつかれたらと思う。
 - ・子供の緑への関心を高める目標が必要(例：樹木の名前が言えるなど)
 - ・生物多様性に関する学校教育や普及啓発を市としてどう考えていくか示す必要がある。
-
- ・都市計画のゾーニングによって緑被率等の目標を設定すると具体的になるのではないか。住宅地と中高層の地域では、緑化の難易度が異なると思う。
 - ⇒都市計画の用途地域と緑化が連動する緑化地域制度があり、制度の導入により緑化推進の効果はあるが行政の負担が大きい。
 - ⇒具体的に計画に示すのは難しいかもしれないが、緑の基本計画の次の段階のアクションプランで示してはどうか。個別施策でガイドブックの作成等を記載してはどうか。
 - ⇒都市計画と連動させる可能性について庁内検討委員会でも議論してほしい。
 - ・樹木の維持管理について市の方向性を示す必要がある。
 - ⇒市では、サクラ並木などを1本おきに更新しており、一気になくなるショックが少なく、良い方法だと思う。計画でもその方向性を示した方がいい。
 - ⇒道路にかかると枝が剪定されてしまっている。車にかからない高さのものは残して欲しい。
 - ⇒かつてのお屋敷の樹木を保存した公園が市内にはあり、特にマツはかつての市の面影を残す貴重な樹木だと思うが、手入れが行き届いておらずこのままでは枯れてしまう可能性がある。武蔵野市らしい公園としていくためにも、管理の検討が必要。